29　　逢坂の関の清水の場所

　終止形・連体形など接続の助動詞まとめ

ある人のいはく、逢坂の関の清水といふは、走井と同じ水ぞと、なべて人知り侍るめり。しかａにはあらず。清水は別の所にあり。今は水もⅠなければ、そことも知れる人だになし。三井寺に、円実坊の阿闍梨といふ老僧、ただひとりその所を知れｂり。かかれど、「Ⅱさることや知りたる」とたづぬる人もなし。「我死なむ後は知る人無くてやみｃぬべきこと」と、人に会ひて語りけるを伝へ聞きて、彼の阿闍梨知れる人の文を取りて、建暦の初めの年、十月二十日あまりのころ、三井寺へ行き、阿闍梨に対面して言ひければ、「かやうに古き事を聞かまほしくする人もかたく侍るｄめるを、めづらしくなむ。いかでか導つかまつらざらむ」とて、伴ひて行く。今は小家の後方になりて、当時は水もなくて、見所もなけれど、昔の名残、面影にうかびて、優になむおぼえ侍りｅし。

【本文チェック】

①□ａ～ｅの助動詞の、文法的意味・文中での活用形を書きなさい。

　ａ（　　　　　・　　　　　形）　　ｂ（　　　　　・　　　　　形）

　ｃ（　　　　　・　　　　　形）　　ｄ（　　　　　・　　　　　形）

　ｅ（　　　　　・　　　　　形）

②「伝へ聞きて」の内容はどこからどこまでか、本文に「　」をつけなさい。

③傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、書きなさい。

　Ⅰ（　　　　　　　　　　　　　　　）

　Ⅱ（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　逢坂の関〔１〕（　　　　　　の　　　　）

２　阿闍梨〔３〕（　　　　　　　　）

３　十月二十日〔５〕（　　　　　　　　　　　　　）〔月の異名で〕

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　しか〔１〕　　 （　　　　　　　　　　　）

２　かやうなり〔６〕（　　　　　　　　　　　）

３　優なり〔８〕　①立派だ

　　　　　　　　　②（　　　　　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　のめづらしきこと、ののし。（日本霊異記）

　ア　珍奇だ　　　イ　奥ゆかしい

　ウ　めでたい　　エ　すばらしい

　（　　　）

２　に、あまたの題ありて、やまと歌つかうまつりし中に、（大鏡）

　ア　お詠みになる　　イ　詠みます

　ウ　詠み続ける　　　エ　詠み申し上げる

　（　　　）

３　船にも思ふことあれど、かひなし。かかれど、この歌をひとりごとにしてやみぬ。（土佐日記）

　ア　しかし　　イ　だからこそ

　ウ　つまり　　エ　こうして

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の空欄を埋めよ。

１　断定の「たり」は（　　　　　）に接続し、断定の「なり」は（　　　　　）や（　　　　形）に接続する。

２　比況の「ごとし」は、（　　　　　）や（　　　　形）のほか、助詞「（　　）」「（　　）」に接続する。

３　「べし」「らむ」「めり」「らし」「まじ」、伝聞推定の「なり」は基本的に（　　　　形）に接続するが、ラ変型活用語には（　　　　形）に接続する。

問５　次の傍線部の助動詞「べし」の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　潮満ちぬ。風も吹きぬべし。（土佐日記）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　羽なければ、空をも飛ぶべからず。（方丈記）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　人、死を憎まば、を愛すべし。（徒然草）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【古典常識】

問６　「逢坂の関」とは、古くから和歌に詠み込まれる地名（歌枕）である。（現在の京都府）と（滋賀県）の境にあった関所で、この関の東側が東国だとされていた。多くは「ふ」との掛詞として使われ、「逢ふ」には「結婚する・男女の契りを結ぶ」という意味がある。そこから、「逢坂の関を越ゆ」で「男女の契りを結ぶ・恋人との逢瀬を遂げる」という意味にもなる。次のア･イの和歌のうち、「逢坂の関」を「恋人との逢瀬」の意味で用いている方を選べ。

ア　これやこの行くも帰るも別れては 知るも知らぬも逢坂の関

イ　夜をこめて鳥の空音ははかるとも よに逢坂の関は許さじ

（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ａ＝断定・連用　ｂ＝存続・終止　ｃ＝強意・終止

　　ｄ＝婉曲・連体　ｅ＝過去・連体

②　「逢坂の～語りける」

③　Ⅰ＝ないので　Ⅱ＝そういうことを知っているか

問１　１＝おうさか（の）せき　２＝あじゃり

　　　３＝かんなづきはつか

問２　１＝そのように　２＝このようである　３＝優雅だ

問３　１＝エ　２＝エ　３＝ア

問４　１＝体言・体言・連体　２＝体言・連体・が・の

　　　３＝終止・連体

問５　１＝推量・終止形　２＝可能・未然形　３＝当然・終止形

問６　イ

【現代語訳】

問３　１　舞や歌のすばらしいことは、天上の舞楽のようであった。

　　　２　天皇のお出ましのときに、たくさんの（和歌の）題が出されて、和歌を詠み申し上げた中に、

　　　３　船（の人）にも思うことはあるが、どうしようもない。しかし、（私は）この歌を独り言として（詠んで）やめにした。

問５　１　潮が満ちた。風もきっと吹きだすだろう。

　　　２　羽がないから、空も飛ぶことができない。

　　　３　人は、もし死を憎むなら、生を愛さなければならない。

問６　ア　これがあの、京の都から出て行く人も帰る人も、知り合いも知らない人も皆、ここで別れ、ここで出会うという、有名な逢坂の関なのだなあ。

　　イ　夜がまだ明けないうちに、鶏の鳴き真似をして番人をだまそうとしても、（中国の故事にあるならともかく、）この逢坂の関は決して開けませんよ。（うまいことをおっしゃっても、私はあなたに決して逢いませんよ。）